



「まだまだ強くなれる」。 日野のソフトテニス強化へ

町では、4月からソフトテニスのスポーツ指導員を設置し、小・中学生などの競技力の向上を目指しています。その思いを託されたのは、国体優勝などを誇るトップアスリートの花田周弥さん。

日野のソフトテニス強化へ向けて、抱負や課題などを聞きました。

「テニスがしたい」
子育てを機に移住

―日野町でソフトテニスを指導することになったきっかけを教えてください。

私は、和歌山県出身で、日野町へ来るまでは京都府にいました。私には子どもがいるのですが、子育てしやすい環境を求めて妻の実家のある伯耆町へ移ることに。その際、ソフトテニスの指導者の話を紹介され、仕事をしながらテニスができることが魅力と感じ、日野町で働くことになりました。

全国で勝ち抜くための課題
“体の使い方”を身に付けること

―日野町のソフトテニスのレベルはどう感じましたか。

まだ指導を始めて3カ月ですが、県内のレベルでは十分戦える実力はあると思います。小学生にとっては、テニスコートが近所であり、練習環境も最適です。ただ、子どもたちの数が少なくなっていることもあり、「競い合う」状況が減っていると感じました。競い合っていてこそ、お互いに力が付いてくるものです。そこに、全国レベルで見るとまだまだ勝てないと感じる原因の一つがあるように思います。―そのほかに感じた課題などはありますか。

日野の子どもたちは、「動かされて打つ」などのフットワークに課題があると感じています。小さいころからソフトテニスをやってきて、「定位置で打つ」場合は基礎もできていて、とてもうまいの

ですが、重心移動などの体の使い方が身に付いていないので、「動かされて打つ」のが苦手なようです。

これは、私の経験上ですが、野球をしている子の方がそうした動きがしっかりとできています。野球の場合、ボールを捕球するために、体をボールの位置まで動かす必要がありますが、ラケットが届けば当てられますから、どうしても足が動かなくなってしまうのです。

小・中・高 それぞれの段階に合わせた練習を取り入れ、しっかりとした実力を付けさせたい

―では、これからどういった指導をし、どんな選手を育てていきたいですか。

ソフトテニスの基礎はできていますから、練習メニューの中に、フットワークや体の使い方を身に付けさせるトレーニングなどを取り入れていければと考えています。

そして、小学生の時は、体の使い方を覚えるのに

専念させ、中学生では、それに加え、戦術を覚えていきます。体の使い方ができていれば、それを踏まえた戦術も増えていきますから、実力もついてきます。さらに、高校生になれば、力もついてくるので、さらに進化したテニスができるようになります。

私は、高校や大学でも勝てる選手を育てたいと考えています。これまで、中学生までがピークで高校生になつてから勝てなくなつた選手を多く見てきました。日野の子たちもそうならないよう、「打つ」「走る」など、体が成長してきた時に、負けないうテニスができることが目標です。これから、自分の出来る範囲で、そうした強い選手を育てていきたいと考えています。

また、私も現役選手として、全日本選手権で勝つことを目標に日々練習に励んでいます。子どもたちと一緒に目標に向かって頑張っていけるとうれしいですね。



練習にも積極参加。
「さあ、がんばれ！」

目標に向かって
一緒に頑張ろう！



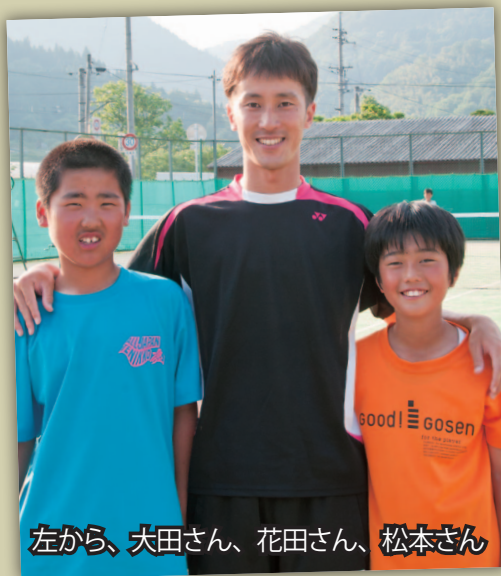
子どもたちとのコミュニケーションも大事



身振り手振りで分かりやすく



子どもたちとも真剣勝負。
体で動きのコツをつかんで



左から、大田さん、花田さん、松本さん

花田さんへ寄せる期待。 さらなる高みを目指して

花田さんは、小・中学生、そして日野高校で練習に参加し、指導を行っています。トッププレイヤーを間近に彼らはどう感じているのか。子どもたちや指導者に話を聞きました。

—大田 優さん（黒小6年、黒坂ジュニアキャプテン）

「すごい選手が地元に来て、いろいろなことをまとめて教えてくれるので、うれしいです。全部吸収して強くなりたいです」

—松本 椿さん（黒小6年、黒坂ジュニア副キャプテン）

「動き方のコツなど、実戦ですぐ使えるように教えてもらっています。花田さんがいることで、意識してプレーできるし、失敗しても分かりやすくアドバイスしてくれるので、すごくうれしいです」

—佐々木 優里さん（日野中2年）

「ボールのラケットの面への当て方や重心移動のポイントなど、自分のプレーを見せながら丁寧に教えてくれるので、初めより上達してきたと実感しています。選手としても指導者としても地元の花田さんのような人がいるのは、とても心強いです」

—坪倉 直之さん（日野高校3年、ソフトテニス部主将）

「基礎的なことから詳しく分かりやすく教えてもらえるので、しっかりとした実力が身に付きそうです。現在、日野高の実力は下の方ですが、少しでも上に行けるよう努力していきたいです」

—長谷部 正人さん（黒坂ジュニア指導者）

「子どもたちとも年齢が近く、楽しそうに練習できていると感じています。子どもの数もそうですが、指導者不足という課題も抱えています。これをきっかけに地元に残ってプレーしてくれる人が増えるとうれしいですね」

—佐城 潤三さん（日野中学校男子ソフトテニス部顧問）

「生徒たちと一緒に交じって雰囲気づくりからしてもらっています。結果はおのずと出てくるのでは。花田さんをきっかけに、かつての勢いを取り戻してほしいと思います」